

## 介護・医療連携推進会議記録

開催日時	令和6年 9月25日(水) 18時30分 ~ 19時30分	場 所	株式会社グッドライフケア東京 大阪オフィス2階研修室
参加者	地域包括支援センター 職員3名、病院 職員1名、介護施設 職員1名、 医療連携室 職員1名		
○利用者推移の数値的データの紹介と考察 ○事例紹介 ○意見交換・質疑応答			
活動内容等の評価 感染症対策のため『Zoom』を用いて本会場と併せて会議を実施 Zoom参加者 外部 6名 職員 6名 (最大接続時) 本会場参加者 外部 0名 職員 7名 参加者合計 19名 ・定期巡回 介護度別グラフ(令和6年1月~6月)、4区別利用者推移グラフ(令和6年1月~6月) ・事例発表 『自立心が高い、認知症女性に適應する定期巡回』(被害妄想による拒否が多いが、継続的な訪問と、多職種が連携する事で関係性を構築し、妄想を緩和しながら、サービスの実施が出来るケース) ・意見交換・質疑応答			
<b>内容</b> ○要介護度別の定期巡回利用者数の報告 ⇒要介護度が低いほど利用者数が多い傾向があり、これは短時間訪問が基本となる定期巡回の特性によるものと考えられる。  ○利用者推移の数値的データの紹介と考察 ⇒福島区が突出して多いのは居住環境・生活環境など地域性が影響している。 利用者数の減少に関してはサービス終了だけでなく定期巡回から介護に移行された方も多い。  ○事例紹介 ⇒今回のご利用者は、数年前までお一人でスナックを經營、現在はアルツハイマー型認知症の中等度と診断され、要介護1の認定。親族は遠方で音信不通のため、スナックを閉めてからは生活保護を受けながら独居。依頼を頂いた経緯は、本人の知人が包括に相談された事がきっかけ。 ⇒本人は認知症の受け入れはできていないが、自分が自分ではない感覚と話され感性では認識し、心身の衰えに不安を感じている。一日一錠の服薬があるが、曖昧な管理状況であるため、「服薬確認・食事状況確認・生活状況確認」を本人希望で男性介護士中心に定期巡回・随時対応型訪問介護看護によるサポート体制で対応。記憶が曖昧で、予定を忘れやすいことからホワイトボードをカレンダー下に設置する等、多職種で連携し安心感を持ってもらえるよう対応し、徐々に悩み等話してもらえるようになった。 ⇒自身の行動記憶が無くなるため外出時に服等が盗まれたと勘違いする「もの取られ妄想」が出現、薬の処方に対応したが体調の悪化を訴えるようになり、通院・買物の外出拒否や服薬拒否が強くなる。そこで本人と話し合い、本人の要望で外出中介護士が玄関前で待機し「門番」をする対応を実施、安心して外出出来るようになったため確実に妄想や拒否が減った。 ⇒日々の細かな情報を介護士が記録・共有することにより、CM・看護師がその情報から必要な対応をすることが出来る。スナックをされていたこともあり話し好きな本人に、今後も寄り添って会話をすることで、本人の思いに沿った支援を出来ればと考えている。  ○意見交換・質疑応答 ・質問：買い物は20分程度で出来たのか。 ⇒回答：住居(アパート)の下にコンビニがあるので大体15分程度で買い物ができる。いつも介護士に気を遣って急いで帰ってこられる。介護士の特徴をよく見ておられ話して下さり、介護士が元気をもらう時もある。今後も不安を解消し、楽しく介入できればと考えている。 ・質問：「知人」とはどのような関係の方か。 ⇒回答：誰も知らない。来ているだろう、という程度の認識しかない。 ・質問：コール機を渡していると思うが、定期巡回以外で連絡があったことがあるか。 ⇒回答：本人からの発信はない。介護の緊急訪問のニーズがないため、看護に緊急で入ってもらい、緊急コールは看護で対応(訪問時介護士から体調不良等連絡をする等)。			
事業所名	グッドライフケア24大阪	記録作成者	令和6年 9月25日 今西 豊